

広がれ! ゆいまーるの輪

東日本大震災 被災地・者 支援活動

東北・関東を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災。震災から約半年が経過した今なお、被災地では多くの方々が避難所生活を送り、不自由な生活を余儀なくされています。

被災地へ向けて全国各地で様々な支援活動が行われているなか、市でも地震発生直後から被災地に職員を派遣するなど支援活動を継続しています。

お問い合わせ 総務課 ☎862-9911

被災地への職員派遣

市は、地震発生直後から被災地支援のため、水道職員延べ9人、消防職員14人、保健師延べ7人を派遣しました。

活動報告

健康推進課 保健師 島袋明華さん

私は5月24日～28日の5日間、岩手県大船渡市で被災者の健康相談などの支援活動を行いました。

震災から2か月半程経っており、被災された方々が避難所から、仮設住宅へ移る頃でした。しかし、未だ余震が続き、ガレキの撤去作業が続く中、気温の上昇と共に魚などの生臭い異臭が漂い、乾燥するとほこりが舞う状況でした。

被災された方は、精神的に落ち着かず血圧は高い数値を示していました。私たち保健支援チームは役所など関係機関と連携し、自動血圧計の配付や、診療を再開した医療機関を紹介し、できるだけかかりつけ医に診てもらおうと呼びかけました。

被災地は、私が想像していた以上に悲惨な状態でしたが、それ以上に、被災された方々が前向きに現実と向き合っていることに強さを感じました



訪問支援を行う島袋保健師

救援物資

多くの方々からのご支援により、大型段ボール箱264箱分(毛布、紙おむつ、ボックスティッシュ、タオルなどの救援物資を被災地へ搬送することができました。

義援金

市民や市内企業をはじめ多くの方々からご支援いただき、8月1日現在、集まった義援金は約4298万円です。現在も、左記のとおり義援金を募集しています。みなさんのご支援をお願いします。



(義援金箱)
飯庁舎、銘苅庁舎、教育委員会(とまりん内)、3支所(真和志支所、首里支所、小禄支所)に設置。

市長の被災地視察+支援物資の贈呈

本市の防災計画の見直しに資することを目的に、7月19日(火)～21日(木)の日程で、翁長市長が宮城県塩竈市、気仙沼市、岩手県陸前高田市、大船渡市を視察しました。公式訪問した塩竈市、大船渡市には市内企業・団体から託された黒糖や乾燥もずくなどの沖縄の特産品を贈りました。

市営住宅の無償提供

震災により住宅が全半壊・全半焼またはこれに準ずる被災をされた方および福島原発事故に伴い福島県から避難してきた方に、市営住宅の無償提供を行っています。電気・ガスの光熱費は半年間、水道料金は1年間、市が負担します。8月1日現在、12世帯入居中

福島県から避難してきた村井信子さんに話を伺いました

震災が起きた後、知り合いや東京にいる娘のところでお世話になり、3月22日に那覇へきました。

3日しか宿を確保していなかったため、市役所に伺い、事情を説明したら3日の内に市営住宅に入れるように準備してくれました。

入居してからは、自治会をはじめ地域の方々から生活用品を頂いたり、優しく声をかけて頂いたり物心両面から支えていただいて、とても感謝しています。



市臨時職員候補者の募集

被災された方への就労支援として、本市の臨時職員候補者の募集をしています。就労を希望されている方は、ぜひご応募ください。お問い合わせ: 人事課 ☎861-7499

支援物資の提供

被災地から避難してきた方々に、沖縄の生活に早く慣れてもらいたい、快適に過ごしていただきたいと、市内企業から多くの物資が市に贈られました。贈られた物資は、市内に避難してきた方々へ提供しました。



→常備薬とゲイアリー

↑ガスコンロの贈呈

提供されたエアコンの設置→

東日本大震災被災者交流会

7月9日(土)、東日本大震災の被災・避難者と、支援ボランティアなど関係者の交流とリフレッシュのための交流会が、那覇市社会福祉協議会の主催で行われました。

参加者らは、沖縄大学エイサー隊の演舞や野外バーベキューを楽しみながら、情報交換など相互の交流を深めました。

交流会を主催した那覇市社会福祉協議会では、那覇市災害ボランティア支援センターを設置するなど、現在も様々な被災・避難者の生活支援に取り組んでいます。



NPOや事業所などの支援活動

震災発生直後からNPOや事業所でも多くの独自の支援活動が行われています。生活用品の提供・貸し出しや支援情報フリーペーパーの発行をはじめ、本当に多くの支援があり、避難された方々には心強い支援になっています。

被災地への支援 市内に避難された方への支援



温かい支援を被災地へ(支援物資)



被災地を視察する翁長市長



上原彩子プロゴルファーから義援金贈呈

震災からの復旧・復興のために、市民や企業のみならずから多くの支援をいただいています。被災地の復旧は、長期にわたることが予想されます。

被災地への支援「ゆいまーるの輪」を広げていきましょう。これからもご支援、ご協力を宜しくお願いします!

